

## 第2回

# 東京都火山防災シンポジウム

～ 火山噴火から身を守るために知る・備える ～

■ 開催日  
令和6年

**1月21日** (日)  
14:00～16:30  
(開場 13:30)

■ 会場

TKP東京駅カンファレンスセンター  
カンファレンスルーム8B(8階)  
(東京駅中央区八重洲1-8-16新槇町ビル)  
+ オンライン配信(Zoom)

■ プログラム

### 基調講演

14:10 ～ 15:20

「伊豆諸島の噴火の特徴～ 三宅島を中心に～」

及川 輝樹 氏 (国立研究開発法人産業技術総合研究所)

「火山噴火の地域への影響と避難計画」

浅沼 光輝 氏 (大島町防災対策室防災係 防災情報アドバイザー)

「火山災害で避難するということ～その判断の背景にあるものは～」

宮下 加奈 氏 (一般社団法人 減災・復興支援機構 専務理事)

### パネルディスカッション

15:30 ～ 16:25

～火山噴火から身を守るために、知る・備える～

《 コーディネーター 》

宇平 幸一 氏 (東京都防災専門員(火山))

《 パネリスト 》 順不同

及川 輝樹 氏 (国立研究開発法人産業技術総合研究所)

浅沼 光輝 氏 (大島町防災対策室防災係 防災情報アドバイザー)

宮下 加奈 氏 (一般社団法人減災・復興支援機構 専務理事)

水岸 研二 氏 (気象庁伊豆大島火山防災連絡事務所 所長)

# 令和5年度 東京都火山防災シンポジウム開催について

東京都の島しょ地域には21の活火山が存在し、

そのうち伊豆大島、利島、新島、神津島、三宅島、御蔵島、八丈島、青ヶ島の8つは住民が居住している火山島です。

伊豆大島、三宅島は数十年に一度の間隔で噴火しており、そのほかの火山島でも噴火が発生する可能性があります。

島しょ地域における火山防災対策について、もしもの噴火に備えて、一緒に考えてみませんか。

## 講演者



講師・パネリスト

### 及川 輝樹 氏

(国研)産業技術総合研究所  
活断層・火山研究部門 火山活動研究  
グループ 主任研究員

国土交通省 火山噴火緊急減災対策  
砂防計画検討会(御嶽山、乗鞍岳、焼  
岳)に有識者として参加他、火山防災  
のスペシャリストとしてご活躍

引用元：日本地球惑星科学連合  
2018年大会 地球・惑星科学  
トップセミナーリーフレット



講師・パネリスト

### 浅沼 光輝 氏

大島町防災対策室防災係  
防災情報アドバイザー

大島町出身。元気象庁職員であり、  
1986年の伊豆大島噴火時には、  
大島測候所に勤務。

浅沼氏より許諾を受け  
引用



講師・パネリスト

### 宮下 加奈 氏

一般社団法人 減災・復興支援機構  
専務理事

東京都三宅島出身

1983年・2000年に噴火を経験  
2005年ネットワーク三宅島を創設  
被災体験を中心に講演活動実施中

宮下氏より許諾を受け  
引用

## コーディネーター・パネリスト

コーディネーター

宇平 幸一 氏 東京都防災専門員(火山)

パネリスト

水岸 研二 氏 気象庁  
伊豆大島火山防災連絡事務所  
所長

## 総合司会



しおばら よしの

### 塩原 桜 氏

ニュースキャスター  
テレビ埼玉等で活躍中

長野県上田市出身

資格:防災士など

## パネルディスカッション

～火山噴火から身を守るために、知る・備える～

講演者の3名と伊豆大島火山防災連絡事務所の職員を交えて、島しょ地域における火山防災についてお話いただきます。

どんな火山現象が起こるのか、火山噴火が起きたらどのように行動すればよいのか、一緒に考えましょう。

火山噴火による避難では  
どんな心構えが必要？

噴火から身を守るためには  
どんなことを知っておけばいい？

# 近年の伊豆諸島における火山噴火

## ■ 三宅島(1983年、2000年噴火)

三宅島はほぼ円形で、中央には雄山（おやま、775m）があります。有史以来、三宅島では、山腹の割れ目火口から噴火することが多く、ときには山頂でも噴火しています。

1983年10月の噴火では、阿古集落の大部分が溶岩流により埋没しました。

また、2000年7月～8月には、山頂部で噴火を繰り返し、カルデラを形成しました。この噴火以降、島では高濃度の二酸化硫黄を含む火山ガスの放出が続き、全島民約3,800人が島外での避難生活を余儀なくされました。避難は2005年2月の帰島まで続きました。

出典：東京都「伊豆諸島の活火山～噴火からあなたの身を守るために～」  
(2020年10月発行)



一時避難所の代々木オリンピックセンター

引用元：三宅島噴火災害の記録（平成20年2月 東京都三宅村）

## ■ 伊豆大島(1986年噴火)

伊豆大島は、伊豆諸島の中で東京の都心部に最も近く、最も大きな島です。島中央部のカルデラと三原山（758m）だけではなく、島の北北西-南南東方向にある多くの側火山も噴火で生まれた地形です。

1986年噴火は、山頂火口、カルデラ内北部、カルデラ外北西山腹の3箇所で発生しました。溶岩流が元町方向に流れ、また、島の南部などでも噴火の恐れがあると考えられたため、全島民の約1万人が島外へ避難しました。島にある火山博物館では、地層大切断面の一部を剥ぎ取って標本にした実物を観察したり、火山について知ることができます。



1986年11月21日

山頂・カルデラ内・山腹噴火を対岸の伊豆半島から撮影

写真提供：東伊豆町消防本部

## 伊豆諸島の火山防災についての参考情報

### ■ 令和4年度東京都火山防災シンポジウム

令和4年度は、東京大学名誉教授の藤井敏嗣氏、渡辺秀文氏、三宅村役場総務課長の芳賀雄一郎氏をお招きし、島しょ地域の火山防災について議論しました。



### ■ 東京都 火山防災リーフレット「伊豆諸島の活火山」(2020年10月発行)

伊豆諸島を訪れる観光客や住民の皆さんに、伊豆諸島の火山が噴火したときの防災対応を整理した資料を公開しています。



### ■ 東京都 火山避難計画

住民及び来島者の安全を確保し、円滑に避難できるよう、伊豆大島、新島、神津島、三宅島、八丈島、青ヶ島のそれぞれの火山防災対策協議会にて、火山避難計画を策定しています。



詳細は右のQRコードよりご覧いただけます

(注) QRコードという名称は株式会社デンソーウェーブの登録商標です

## ■ 会場へのアクセス



## ■ 会場での参加、オンライン視聴ともに事前申込が必要です

- ・ 参加資格  
どなたでもご参加いただけます(無料)
- ・ 申込期間  
令和5年12月21日(木) ~ 令和6年1月17日(水)
- ・ 参加定員  
会場 35名、オンライン(Zoom) 100名  
※ 申込期間中でも、定員を超過しましたら、受付を終了いたします  
※ ご視聴環境は、視聴者の皆様においてご準備いただくようお願いいたします
- ・ 申込方法 : 右上のQRコード、または下記のURLよりお申込みください  
(オンライン参加申込) [https://x.gd/r5\\_symposium](https://x.gd/r5_symposium)  
(会場参加申込) <https://forms.office.com/r/vx8t2582dN>



会場での参加  
希望はこちら



オンライン参加  
希望はこちら

## ■ 問い合わせ先

令和5年度 東京都火山防災シンポジウム

主催 東京都総務局総合防災部

事務局(受託事業者・株式会社建設技術研究所内)

内容に関する問合せ(E-mail) [r5\\_tokyo\\_kazan@tokyo.ctie.co.jp](mailto:r5_tokyo_kazan@tokyo.ctie.co.jp)

※ 返信までにお時間をいただく可能性がございます、予めご了承ください